江田島中学校区　　令和２年　１２月１６日

小中連携道徳通信６号

発行者：江田島中学校区 道徳教育推進リーダー　川中　健太

◎多様で効果的な道徳の指導方法（その３）

◆江田島小学校４年生での授業実践

１１月２４日（火），江田島小学校４年１組にて研究授業を実施しました。

【主題名】友達のことを考えて（Ｂ－９　友情，信頼）

【教材名】絵はがきと切手

●ねらい

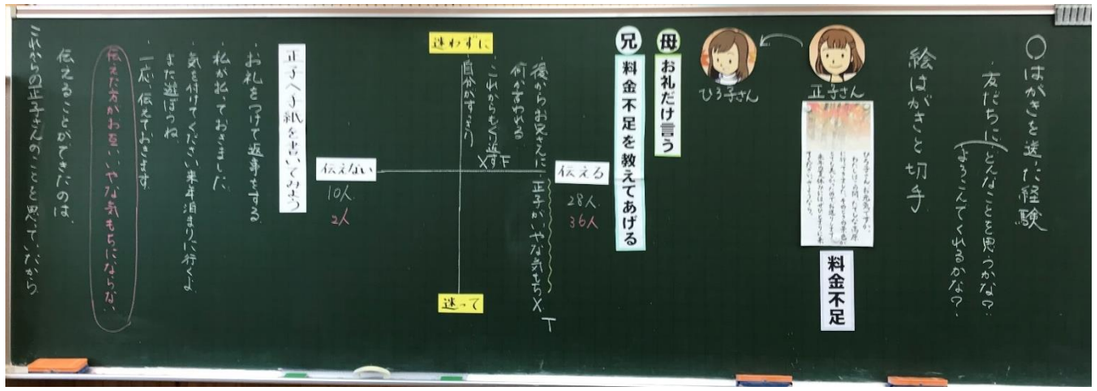
友達である正子のために料金不足を教えるか，言わずに黙っておくか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して，友達とよりよい関係を築き，友達と信頼しあい，友情を深めていこうとする道徳的心情を育てる。

●指導上の留意点および工夫

・教材内容を児童にスムーズに理解させるため，はがきの実物を準備する，Ｔ１の範読と同時にＴ２が教材の内容を整理した板書を行う。

・ひろ子の迷いに焦点を当て，自分ごととして考えさせるため，教材を分割して範読する。

●板書写真



●研究協議から

○成果

・導入は自分の経験を想起するものであり，考えやすかった。導入に時間をかけすぎず，中心発問以降で書く時間や考える時間を十分に確保することができていた。

・ワークシートに４象限を準備し，考えを書かせたことで，児童の意見が明確になり，活発な意見交流につなげることができていた。

・展開後段で，考えが変容した児童に着目し，道徳的価値について考えを深めていこうとすることができていた。

▲課題

・教材の内容理解が不十分な児童がいた。「母と兄はなぜそんなことを言ったのだろう」と補助発問をしたり，教科書を分割してコピーしたものを児童に配布したりするといった方法もあったのではないか。

・４象限に書かせた部分で，「伝えない」と書いた児童に対して，意見を聞かずに進めてしまったため，ひろ子が迷う気持ちを考えさせにくくなってしまった。「伝える」「伝えない」両面の考えを十分に引き出しておく必要があった。

【 授 業 記 録 】

＜導入＞

○誰かに手紙を送ったこと（経験）はありますか。

・ある

○どんな気持ちで送りましたか。

・喜んでくれるかな。

◆教材への自我関与を図る導入

＜展開＞

◆範読①を行う。

◆範読と同時に，正子が料金不足のハガキをひろ子に送った状況が理解できるよう，板書を行う。

○正子はどんな気持ちでひろ子にハガキを送ったのだろう。

・喜んでほしい。

・どんなハガキが返ってくるか楽しみ。

◆多様な考えを引き出す中心発問

◎あなたがひろ子の立場だったら，正子に料金不足を教え（伝え）ますか。教え（伝え）ませんか。その理由も書いてください。（ワークシート）

【個人思考】→【ペア交流】→【全体交流】

◆ワークシートに自分の考えを書かせて考えを明確にし，活発な意見交流へつなげる工夫

・迷わず伝えない正子が嫌な気持ちになり，友達関係が崩れてしまうから。

・迷わず伝える正子が今度同じ間違いをしてはいけないから。

・迷って伝えない正子に教えてあげたほうがいいと思うけど，正子が嫌な気持ちになることを考えると，やっぱり伝えるのをためらってしまう。

・迷って伝える正子が嫌な気持ちになるかもしれないけど，これからの正子のことを考えたら，教えてあげた方が正子のためだと思うから。

○迷いが出てきてしまうのは，どうしてだろう。

補どうして迷った？

・正子のことを考えると，教えたほうが良いのか，教えないほうが良いのか，すぐには決められないから。

◆問い返しにより，ねらいに迫る

◆児童の生活につなげる

○みんながよし子の立場だったら，正子さんにどのようなお返事を書きますか。（ワークシート）

・ハガキ，料金不足だったから，今回は私が払ったよ。次回からは，よく郵便局で確認してから出すようにしてね。（「伝える側」の意見を意図的に指名する）

＜終末＞

◆範読②を行う。

補ひろ子さんがきちんと料金不足を伝えることができたのはどうしてだろう。

・相手のことを信頼しているから。

・相手のこれからのことを考えているから。

◆ねらいとする道徳的価値に気付かせる